

1 教師と児童生徒の信頼関係を築くために、あるいは、いじめ・暴力行為・不登校等の生徒指導上の課題を解決するために、小・中連携（小中一貫）をとおして具体的にどのような取組をしているか。

(1) はじめに

本校は八潮市の中心に位置し、今年109年目を迎えた伝統と歴史のある学校である。保護者や地域の方々から、学校教育に深い理解を得て、あたたかい協力を頂いている。保護者・地域に支えられて学校目標である「学び育つ子」の実現を目指し、教育活動に取り組んでいる。

八潮市では確かな学力と豊かな心の育成を目指し、学力向上やいじめ・不登校の解消などの課題解決に向けて、9年間の連続性、系統性を生かす小中一貫教育を行っている。本校でも地域や児童の実態を踏まえ、その取組を推進しているところである。

本校の児童は、明るく素直である。自分に与えられた課題に対しては、意欲的に粘り強く取り組むことができる。しかし、課題解決能力が低く、そこが課題となっている。

また、家庭の学校教育に対する関心が低いため、家庭の中で目（心）をかけてもらえない児童や基本的な生活習慣が身につけていない児童も少なくない。

これらの課題を解決するためには、教職員が一丸となり、児童一人一人の置かれている現状を的確に把握し、共通理解のもと、指導にあたる必要がある。以下に1学期に行ってきた実践を記す。

(2) 具体的な取組内容

ア 基本的な生活習慣の定着。

○八潮市小中一貫教育「学習・生活ガイド」の活用

- ・小中9年間を通して身につけさせたい「生活・学習」の基本的な生活習慣の一覧を全児童に配布。発達段階に応じた指導・支援のもと、確実な定着を目指している。
- ・保護者会等で保護者に「ガイド」についての説明を行い、協力を図った。
- ・ガイドを廊下に掲示し、常に児童の目に付くようにすることで児童の意識付けを行った。



【廊下に掲示した生活・学習ガイド↑】

○朝のあいさつ運動や下校時等のパトロールの実践

- ・朝のあいさつ運動では、教員と有志の児童が毎朝校門や昇降口付近に立ち、あいさつの習慣化を狙いとしたり呼びかけを行っている。
- ・下校時には地域の方々の協力を得て、下校指導も行っている。また、放課後のパトロールとして保護者を中心とした「父の会」（とうふのかい）を中心に町会の協力も得ながら、毎月二回、教員と一緒に夜間の見回りも行っている。



〈有志によるあいさつ運動の様子〉



〈父の会による安全啓発ポスター〉

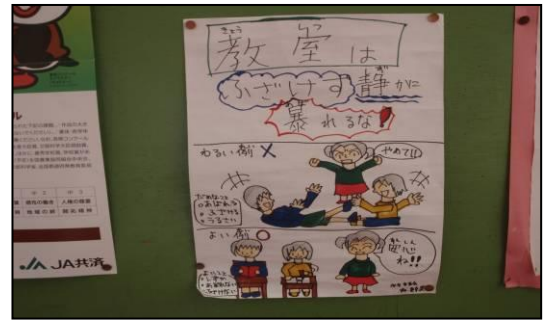
イ 規律ある態度の育成

○月の生活目標の改善

- ・生活目標の達成を確実にできるように、目標によって1月だけでなく2月続きの設定も行った。また、保健目標と合わせて各教室に掲示した。
- ・月初めの全校朝会にて、生徒指導部により生活目標についての話をし、全校で共通理解を図った。そして、各学年、各学級の実態に応じた具体的な目標設定を行った。各学級で、その日、その月の達成状況を評価して、よりよく生活していくための意識付けを行った。



〈生活目標と保健目標の掲示〉



〈安全委員会によるポスター〉

※6月の生活目標「校舎内の過ごし方を工夫します」より

○廊下歩行の継続的な指導

- ・「静かに」「右側を」「歩く」を合い言葉とし、事前に模範となる廊下歩行を全校朝会で指導した。その後、様子を見ながら小まめな見届け、指導を行った。

○美しく安全な校内環境の整備

- ・校内美化、安全点検は教員が日常的に行っている。月に一回の安全点検や、学期終わりの大掃除、校庭整備や遊具の点検を中心に行っている。また、委員会活動（美化委員会・安全委員会）を中心とした取組も行い、児童にも校内美化・安全について意識付けを行っている。

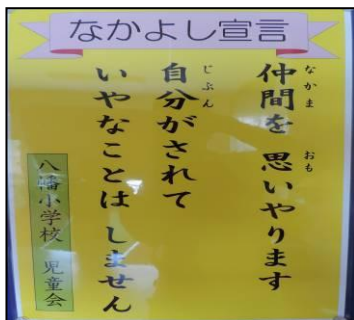
ウ 豊かな心と健やかな体の育成

○なかよしグループ活動の推進による他者との望ましい関わり

- ・1～6年生まで各学年1～2名を基本とした「たてわりグループ」を構成（全64グループ）し、月に1回以上の「なかよしタイム」を実施した。
- ・6年生一人一人が班長となり、遊びを考えた。自分の考えた事を実践し、たてわり班のメンバーが楽しんでくれた様子を見て、最高学年として自信が持てるように取り組みさせた。

○なかよし宣言と3つのキーワード

- ・児童の豊かな心と健やかな体の育成を図るため、「なかよし宣言」と「3つのキーワード」の取り組みを本年度より行っている。「なかよし宣言」の内容は、「自分がされていやなことはしません」「仲間を思いやります」の2つである。また、3つのキーワードとは「本大好き」「元気なあいさつ」「毎日の外遊び」である。これらは月毎に目標を設定し、月末に全児童に自己評価させ、達成率を各学年で数値化する。



〈なかよし宣言のポスター〉



〈3つのキーワードに関する掲示物〉

(3) 成果と今後の課題

【成果】

- ・小中一貫教育の取組として中学校と連携した学習及び生活習慣の定着を目指した実践をすることで、小学校から中学校へのスムーズな接続ができ、中1ギャップの解消につながってきている。小、中学校職員が共通理解の元に指導ができていたため、指導に一貫性がある。
- ・6年生が最高学年としての自覚を持って活動に参加し、自分たちが学校を引っ張っていくという意識で活動しているため、学校に活気がある。
- ・廊下歩行の繰り返しの指導により、落ち着いた生活をできるようになってきた。
- ・あいさつ運動の実施により、自ら進んで挨拶できる児童が増えてきた。

【課題】

- ・曜日や時間帯によってあいさつが積極的にできる時と消極的になってしまう時があるため、引き続きあいさつの習慣化を目指して運動に取り組んでいく。
- ・生活目標の徹底をはかるために、掲示しておくだけにならないよう、各学級で振り返る、明日につなげる、改善することの継続的な取り組みを行っていく。